

東北地方 3か月予報

(3月から5月までの天候見通し)

平成19年2月22日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
この期間の平均気温は高い確率が50%です。降水量は平年並または少ない確率がともに40%です。

3月 東北日本海側は平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。

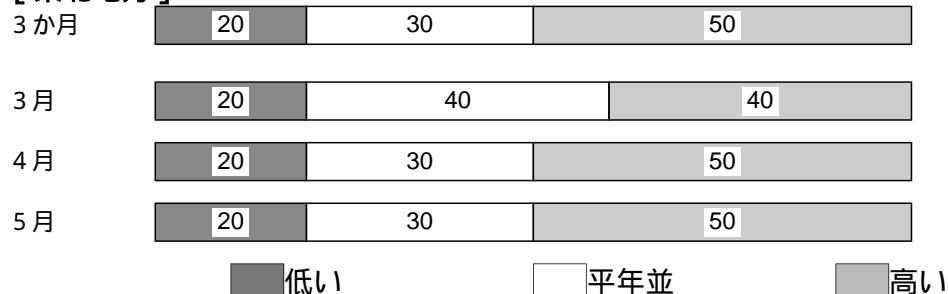
4月 東北地方は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
平均気温は高い確率が50%です。降水量は、平年並または少ない確率がともに40%です。

5月 東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
平均気温は高い確率が50%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

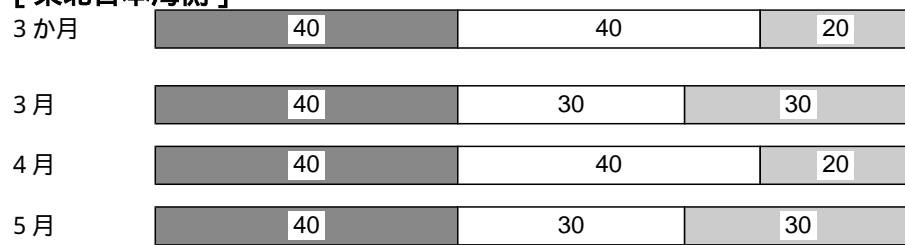
<<気温>>

[東北地方]



< < 降水量 > >

[東北日本海側]



[東北太平洋側]



■ 少ない

□ 平年並

■ 多い

< 次回発表予定等 >

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は2月23日

3か月予報：3月22日(木) 14時

なお、3月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量、日照時間)

	気温()				降水量(mm)				日照時間(時間)			
	3月	4月	5月	3月～5月	3月	4月	5月	3月～5月	3月	4月	5月	3月～5月
青森	2.0	7.9	13.1	7.7	69.5	60.7	78.8	209.0	140.8	187.3	210.1	538.3
深浦	2.6	8.3	13.0	8.0	78.3	93.3	108.8	280.4	120.0	174.7	197.4	492.1
むつ	1.4	7.2	12.1	6.9	77.3	81.1	92.3	250.6	154.3	193.8	207.7	555.8
八戸	2.3	8.3	13.1	7.9	51.6	58.9	84.7	195.2	173.8	194.3	207.5	575.6
秋田	3.2	9.2	14.2	8.9	93.0	117.6	122.8	333.4	135.7	175.0	191.4	502.1
盛岡	1.8	8.4	13.8	8.0	80.1	93.8	103.3	277.3	167.3	175.1	194.9	537.3
大船渡	3.5	9.0	13.6	8.7	91.8	138.0	149.8	379.6	168.7	176.0	196.3	541.0
宮古	3.0	8.7	13.1	8.3	85.9	96.3	98.4	280.6	182.9	192.3	191.8	567.0
仙台	4.5	10.1	14.9	9.8	73.0	98.1	107.9	279.0	182.3	190.9	198.7	571.9
石巻	3.7	9.2	14.0	9.0	70.3	91.8	98.2	260.3	189.7	192.6	206.5	588.8
山形	3.1	9.8	15.4	9.4	66.5	68.1	81.3	215.8	146.5	180.3	201.9	528.6
新庄	2.0	8.1	14.2	8.1	112.1	98.3	106.6	313.6	117.2	150.2	180.1	448.2
酒田	4.2	9.8	14.9	9.6	103.5	105.5	116.8	325.8	126.1	173.1	198.7	497.8
福島	4.9	11.3	16.5	10.9	76.9	79.5	87.5	243.9	179.2	188.6	198.1	565.8
若松	3.0	9.9	15.5	9.4	63.9	63.4	80.5	207.8	140.1	175.8	197.9	513.7
白河	3.6	9.8	14.8	9.4	71.1	100.5	120.0	291.6	183.4	184.2	188.4	555.9
小名浜	6.2	11.1	15.1	10.8	106.1	128.3	147.0	381.4	187.8	186.1	198.4	572.3

欠測により平年値を求めるための資料年数(観測値のある年数)が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

(2) 1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	3月	4月	5月	3月～5月
気温平年差()	東北地方	-0.4～+0.4	-0.3～+0.5	-0.3～+0.4	-0.4～+0.2
	東北日本海側	-0.4～+0.4	-0.5～+0.6	-0.3～+0.4	-0.4～+0.3
	東北太平洋側	-0.4～+0.3	-0.5～+0.5	-0.3～+0.4	-0.3～+0.4
降水量平年比(%)	東北地方	87～111	89～112	86～115	91～106
	東北日本海側	90～109	90～110	84～110	94～107
	東北太平洋側	78～120	84～113	82～111	89～106
日照時間平年比(%)	東北地方	91～108	94～103	98～105	98～104
	東北日本海側	92～108	92～106	95～104	99～104
	東北太平洋側	96～107	95～102	99～106	98～104

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 3か月予報解説資料（3～5月）

平成19年2月22日 仙台管区気象台

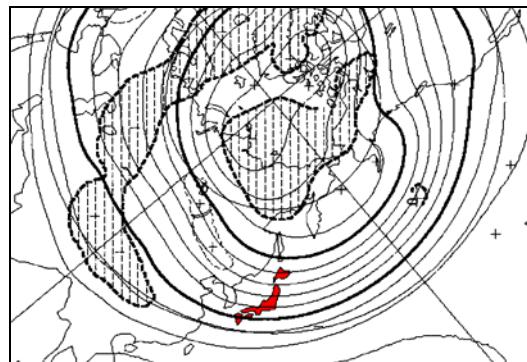
1. 向こう3か月の確率予報の特徴

	気温	降水量
3月～5月	高い確率が50%	平年並または少ない確率がともに40%
3月	平年並または高い確率がともに40%	各階級の確率の偏りは小さい
4月	高い確率が50%	平年並または少ない確率がともに40%
5月	高い確率が50%	各階級の確率の偏りは小さい

2. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図（右図）：

予想図では、日本付近は広い範囲で正偏差域（平年より高度が高く、暖かい空気に対応）に覆われる。このためこの資料からは3か月平均気温は高い傾向が予想される。

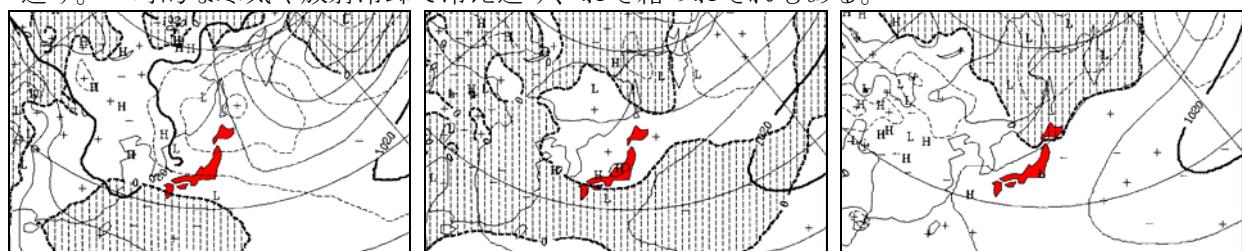


3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図
実線は等高度線：60m毎、点線は偏差：30m毎
陰影部は負偏差（一般に寒気に対応）

月別の地上気圧と偏差の予想図（下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。）：
3月：日本の北で気圧が高く、本州の南岸沿いは前線の影響を受けやすい。冬型の気圧配置は弱く、天気は数日の周期で変化し、東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込み。

4月：北日本は相対的な高圧部。東北地方は高気圧に覆われる日が多く、平年に比べて晴れの日が多い見込み。一時的な寒気や放射冷却で冷え込み、おそれ霜のおそれもある。

5月：日本の北で負偏差。東北地方は、高気圧に覆われる日が多く、平年同様晴れの日が多い見込み。一時的な寒気や放射冷却で冷え込み、おそれ霜のおそれもある。



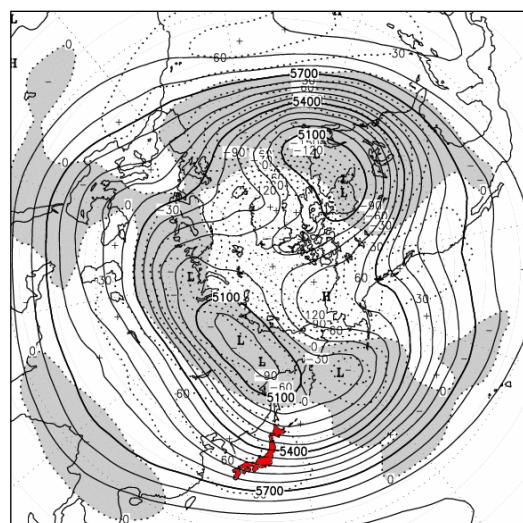
月別の地上気圧と偏差の予想図（左から3月、4月、5月）

実線は等圧線：4hPa毎、点線は偏差：間隔1hPa毎、陰影部は負偏差

3. 循環場の特徴

2月：500hPa高度では、カスピ海付近から日本付近にかけて中緯度帯は強い正偏差（暖かい空気に対応）となっており、東北地方は高温傾向が持続した。

なお、北極付近は正偏差で寒気は放出傾向となつたが、典型的な寒気の放出パターンではなく、寒気は主に北米東部から大西洋側に南下したため、日本付近は引き続き寒気の南下は弱かつた。



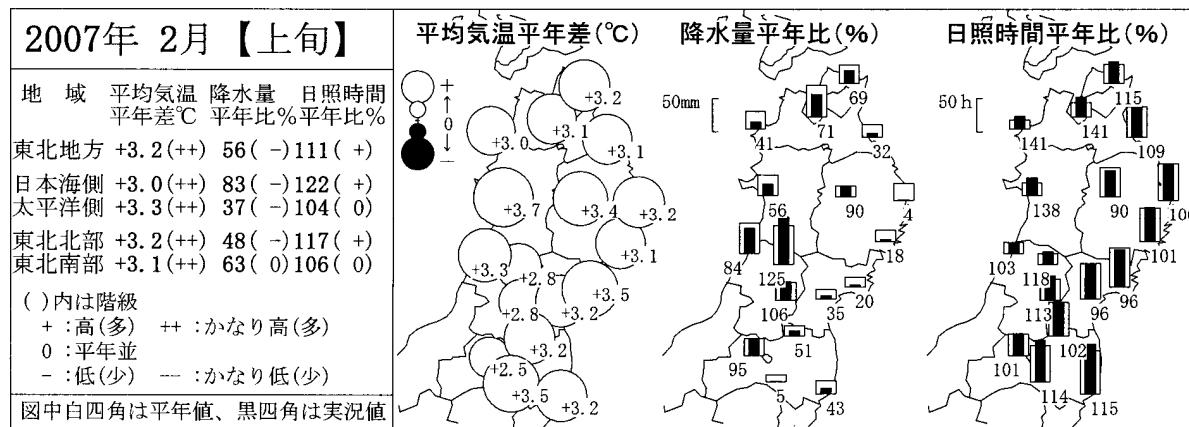
2月1日～20日の平均500hPa高度

実線は等高度線：60m毎、点線は偏差：30m毎

4. 最近の天候経過

2月上旬：4日までは冬型の気圧配置や気圧の谷の通過で、東北日本海側では曇りや雪の日が続き、大雪となるところもあった。その後は冬型の気圧配置は続かず、東北日本海側でも高気圧に覆われ晴れる日もあった。東北太平洋側では、期間を通して晴れの日が多くかった。強い寒気の南下ではなく、気温の高い日が多くかった。

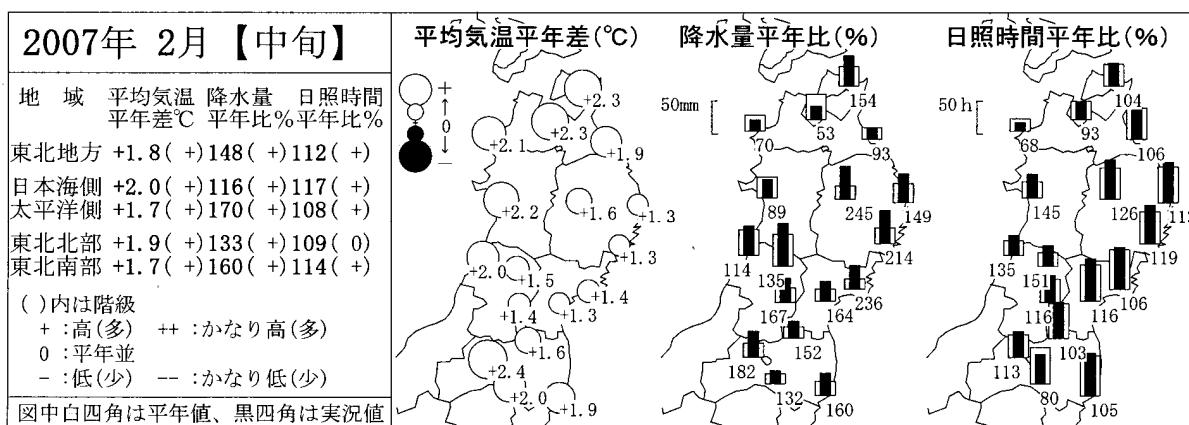
平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並、日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。



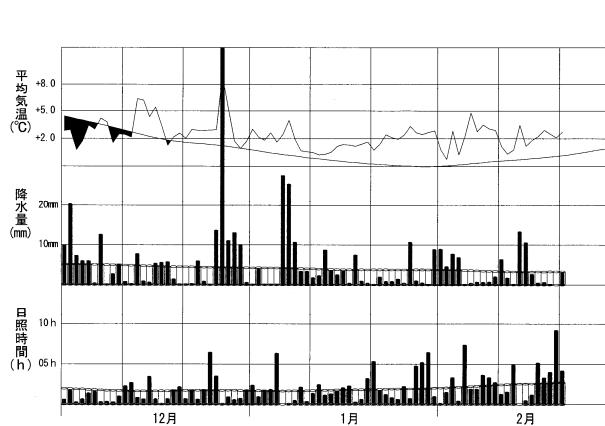
東北地方における2月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

2月中旬：冬型の気圧配置は続かず、東北地方の天気は数日の周期で変化した。14日は日本海を低気圧が発達しながら通過したため、雨や雪となり、八甲田山ではなだれにより犠牲者がいた。15日は一時的に冬型の気圧配置が強まり、大雪や暴風雪、高波となつた。

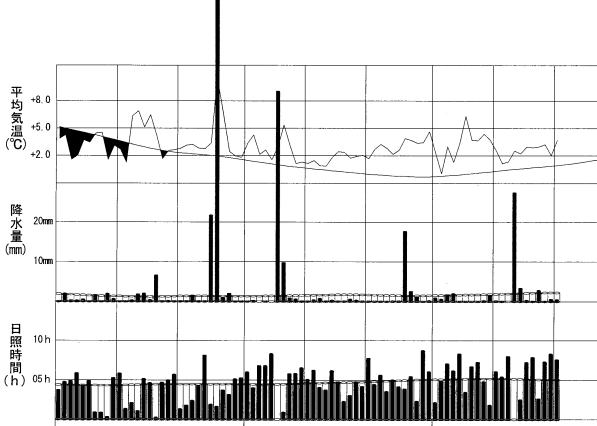
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で多い。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。



東北地方における2月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

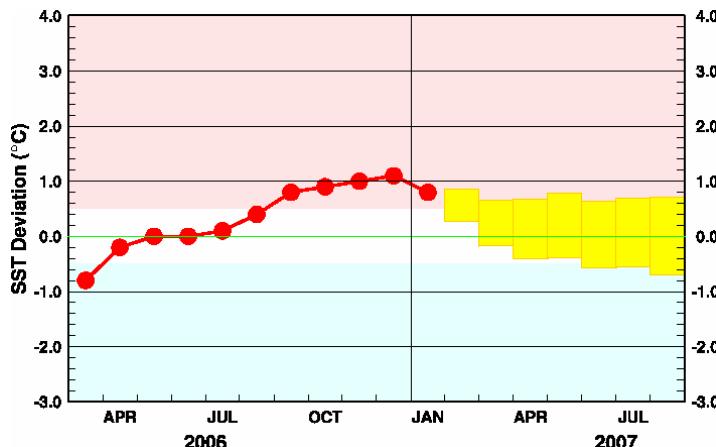
気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

エルニーニョ監視速報 (No. 173) より抜粋。 (気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

・太平洋赤道域の海面水温は、全域で平年より高く、日付変更線付近と東部で正偏差が顕著だったが、中部では正偏差が弱まった。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）の水温は、中部から東部にかけて顕著な負偏差が見られ、エルニーニョ現象の衰退期に現れる特徴を呈していた。

・エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後基準値に近づき、春から夏にかけて基準値に近い値で推移すると予測される。現在のエルニーニョ現象は、春には終息する見込みである。



左図は、エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の先月までの推移（折れ線グラフ）と今後の予測（ボックス）を示している。各月のボックスは、エルニーニョ予測モデルから得られた予測値が70%の確率で入る範囲を示す（基準値はその年の前年までの30年間の各月の平均値）。

<参考資料>

①. 平年の天気出現日数（日）

	3月		4月		5月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	13.3	19.8	16.8	18.2	17.6	17.7
雨の日	14.0	8.3	10.9	8.9	10.4	9.3

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間(太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間)で割った値である。

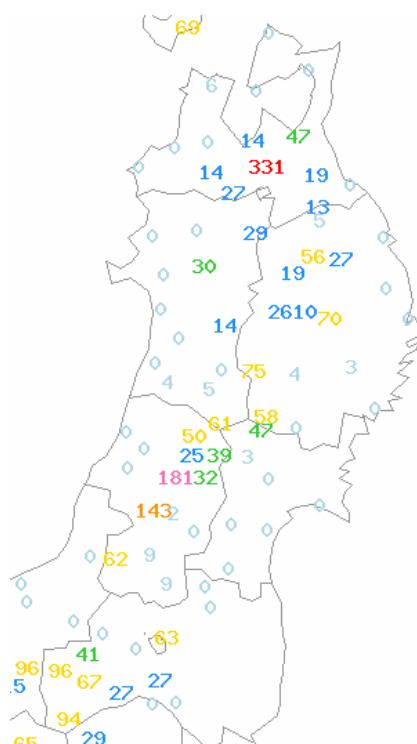
②. なだれと融雪災害

今冬は平地では積雪が平年よりかなり少なくなっています。山間部も少ないところが多いですが、1メートルを超える積雪となっているところもあり、青森県酸ヶ湯では平年を上回る積雪量となっています。

3月は気温が上がり、雨も降りやすくなるため、なだれや融雪による土砂災害などが発生する可能性が高くなります。2月14日には八甲田山でなだれが発生し犠牲者がでています。気象台ではなだれの発生しやすい気象状態のときは、なだれ注意報を発表します。また融雪がすすみ、土砂災害や河川の増水の恐れがあるときは、融雪注意報を発表します（大雨や洪水注意報と併用される場合もあります）。

2月20日現在の東北各県で最も積雪が大きいアメダス地点の積雪と平年比は次のとおりです。

- 青森県酸ヶ湯 331センチ(108%)
- 秋田県湯ノ岱 61センチ(64%)
- 岩手県湯田 75センチ(56%)
- 山形県肘折 181センチ(67%)
- 宮城県駒ノ湯 47センチ(--%)
- 福島県只見 96センチ(57%)



2007年2月20日現在のアメダスの積雪 (cm)